

# 日本SOD研究会報

No.43

# 薬害エイズ 死者の過半数 実は「C型肝炎死」

厚労省昨年度調査

## 血液

製剤でエイズウイルス(HIV)に感染した薬害エイズの被害者で、二〇〇〇年六月から二〇〇一年五月までの一年間に死亡した十三人のうち、半数を超える七人が、C型肝炎ウイルス(HCV)感染が原因の肝疾患で死亡していたことが、厚生労働省エイズ研究班の二十一日までの調査でわかった。一年前の調査でも、死亡した十一人のうち、肝疾患の死亡は六人によっていた。同じ血液製剤により、HIVとHCVに重複感染した薬害エイズの被害者にとり、発症予防が進んでいるエイズよりも、対策が遅れているC型肝炎が脅威となっている実態が明らかになった。

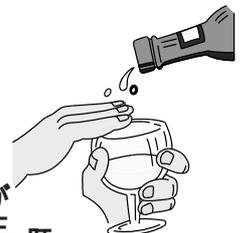
## 重複感染、

## 対策遅れ

## 血友病

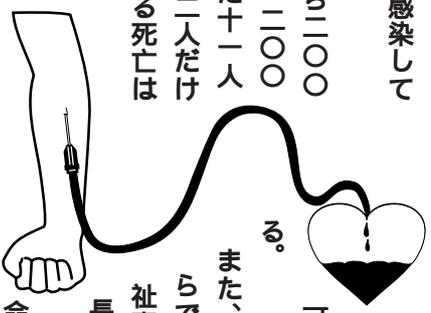
など血液凝固異常 症患者らの病状把

握を目的とした調査で、エイズ研究班に所属する滝正志・聖マリアンナ医科大助教授らが行った。二〇〇〇年六月からの一年間を対象とした「二〇〇一年度調査」の中間報告によると、この期間中に死亡したHIV感染者十三人のうち、エイズで死亡したのは二人だけ。



これに対し、C型の慢性肝炎から進化した肝硬変で死亡した人が四人、肝がんにによる死亡が三人となっていた。

また、一九九九年六月から二〇〇〇年五月までを対象とした「二〇〇〇年度調査」でも、死亡した十一人のうち、エイズによる死亡は二人だけで、肝がんや肝硬変などによる死亡は六人となっていた。この時の調査報告では、肝疾患がHCV感染によるものかどうかは言及していない。



り、両ウイルスに重複感染していたため、二〇〇〇年度の調査では、HIV感染者のうち、HCVにも感染している「重複感染者」の割合は、感染の実態が不明確な人を除くと、99%以上になっていることも判明した。

エイズによる死亡は、発症予防治療の進歩で年々減少しており、九四年の五十四人をピークに、九八年からは一けた台で推移している。九九年以降は、エイズ以外の原因による死亡が上回っている。

調査結果について滝助教授は、「HIVが、C型慢性肝炎から肝硬変や肝がんへの進行を加速させている可能性がある」としている。

また、東京HIV訴訟の原告らで構成する「はばたき福祉事業団」の大平勝美理事長は「薬害エイズの被害者にとって、C型肝炎が命にかかわる一番の問題となってきた。肝炎が悪化すると、HIV治療の効果も落ちてしまう。行政は、有効な薬の早期承認も含め、肝炎治療全般の底上げに力を入れるべきだ」と訴えている。

原因の肝疾患が多いのは、血友病などの治療で投与された血液製剤が、HIVとともにHCVにも汚染されており

# C型肝炎感染

# 13万8000人発見の可能性

# 可能性



## 40歳以上の1100万人受診 基本健診で試算

C型肝炎の緊急対策として、四十歳以上の主婦や自営業者らを対象に市町村が実施している基本健康診査（住民健診）＝「三時典2面」に今年度から導入されたC型肝炎ウイルス（HCV）検査で、五年間で少なくとも十三万八千人のHCV感染者が新たに発見される可能性のあることが、厚生労働省のC型肝炎疫学研究班（主任研究者＝吉沢浩司・広島大医学部教授）の試算で二十六日、明らかになった。しかし、試算には、サラリーマン対象の職域健診などは含まれておらず、「潜在感染者」は試算をはるかに超えていると見られる。

研究班は、日本赤十字血液センターの協力を得て、一九九九年一月二月の間に初めて献血した人（初回供血者）約六十九万人の血液データを分析した。その結果、四十四

十九歳で0.97% 五十 五十九歳で1.50% 六十 六十五歳で2.42%と、年齢が高くなるとともにHCV抗体検査で陽性になる「抗体検査陽性率」が高くなることが判明。さらに、過去の疫学調査で、抗体検査で陽性となった人の約70%はHCVに感染していることから、抗体検査陽性率に70%を乗じた数値を「HCV感染率」とした。

一方、二〇〇〇年度一年間に老人保健法に基づく基本健診を受診した約千五百十三万人を年齢層別に分類。それぞれのHCV感染率を乗じた結果、十三万八千人余に上るHCV感染者が健診で新たに発見される可能性があると試算した。

### 「潜在感染もつと多い」厚労省

度の受診実績をもとにした試算」としたうえで、「ベースとなった献血は、主に健康な人が行うものなので、基本健診での抗体検査陽性率はさらに高くなる可能性があり、潜在感染者は試算以上になると考えるべきだ」と話している。

国内のC型肝炎感染者は百万二百万人といわれているが、正確な感染者数は把握できていない。

基本健診の対象者は約二千八百万人だが、年間受診率は約四割程度。加えて、組合管掌健康保険（被保険者約千六百万人）や政府管掌健康保険（同約千九百万人）に加入するサラリーマンは、基本健診の対象になつておらず、同省は、全国の健康保険組合に対しても、HCV検査の導入促進を呼びかける。

日本では、年間約三万人が肝がんで死亡している。肝がん患者の七八割はHCV感染が原因とされる。インターフェロンを使って治療できるケースも増えているが、発見が遅れるほど治療成績は悪くなる。

外口崇・同省老人保健課長は、「緊急対策の準備が遅れている自治体への働きかけや受診率向上への取り組み

みを、さらに強化したい」としている。また、高島謙二・日本肝臓病患者団体協議会事務局長は、「C型肝炎は自覚症状がほとんどなく、気づい

たときには肝硬変や肝がんにまで進行していたという人も多い。国や自治体は健診の受診率向上に努めるべきだ」と話している。

# C型肝炎薬で3人死亡

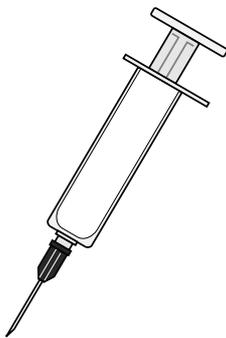
## リバビリンとインターフェロン併用療法の患者

C型肝炎の治療薬で抗ウイルス剤の「リバビリン」（商品名・レベトールカプセル）と、インターフェロンの併用療法を受けた男性患者五人が脳出血などを起こし、うち三人が死亡していたことが十日、分かった。厚生労働省は同日、販売元の「シエリング・プラウ」（大阪市）に、安全性情報を出して医療機関に呼びかけるよう指示した。

しやすい糖尿病も合併していた。厚生省は「併用療法との因果関係は不明」としているが、被害を未然に防ぐため、慎重投与を通知した。リバビリンとインターフェロンとの併用療法は昨年十一月に承認され、これまでに約二万六千人に投与されている。

厚生省によると、昨年十二月から今年八月にかけて、同社のインターフェロン（商品名・イントロンA）との併用療法を受けた四十、六十代の男性四人が脳出血を起こし、うち二人が死亡。別の六十代の男性一人も急性硬膜下血腫で死亡した。

脳出血を起こした四人はもともと高血圧で、うち二人が脳出血を起



# SOD様作用食品の開発

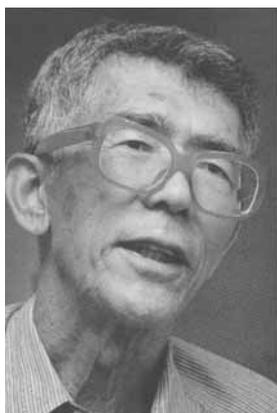
丹羽SOD様作用食品の開発者である丹羽耕三博士は、丹羽免疫研究所所長であり土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場で、癌、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられています。

研究に長年従事し、多くの難病の原因を活性酸素の異常から解明し、これらの難病の治療に関して、SOD様作用食品等の低分子抗酸化剤や抗癌剤を自然の植物・穀物より開発し、大きな治療効果を上げています。

丹羽博士は昭和37年に京都大学医学部を卒業され、医学博士を取得されました。その後、活性酸素とSODの研究を臨床家として国内はもちろん、世界的にも最も早くから手掛ければ、世界的権威として、広く海外に知られています。

私が開発した天然の抗酸化剤であるSOD様作用食品は、いま全国何十万人、何百万人という方々に健康食品として愛用されています。何百人という医師にも医療現場で難病の患者さんに使っていただき、優れた治療効果をあげています。

SODなどの生体防御の研究論文が著名な英文国際医学雑誌に続けて発表され、その数は70編を越します。多忙な治療の傍ら、国際医学専門誌（Biochemical Pharmacology）への投稿論文の審査員もされています。国内では、ヘーチエット病やリュウマチ、アトピー性皮膚炎の治療・



丹羽耕三博士

あしたも元気 (No.35)

日本の食生活  
毎日の食卓から見る栄養

肉について

肉は牛、豚、鶏、その他の獣鳥類を主として人間が生きていくうえで重要な動物性タンパク源です。

日本人は肉を中心とした動物性タンパク質を食べることに平均寿命が延びたとはいわれています。ほど大切なタンパク質を含んでいます。

それと同時に脂肪も多く含んでいるため肉を食べると動物性脂肪も摂取することになります。ただし、日本人は米を主食としてそれを副食にするという食文化ですので、肉ばかりという過剰摂取にはならないのです。

しかし、偏った肉の摂りかたは避けましょう。

肉は種類や部位によってエネルギーやタンパク質、脂肪などの量が違います。味や柔らかさも違います。それぞれに合った調理法をして肉を食べましょう。

【タンパク質】.....  
良質なタンパク質を豊富に含んでいます。つまり体内では合成されない必須アミノ酸をバランス良く含んでいるということです。  
必須アミノ酸.....イソロイシン、ロイシン、リジン、シスチン、メチオニン、フェニルアラニン、スレオニン、トリプトファン、バリン

【脂肪】.....  
肉に含まれる脂肪は飽和脂肪酸で、これはコレステロールの原料になり、コレステロールを血液中に運ぶ働きがあります。コレステロールが過剰増加すると動脈硬化などになりますが、コレステロールは生体膜の構成成分であり、ホルモンの原料にもなるなど人間にとって必要な物質なのです。そして、脂肪はエネルギー源として最も重要で、

また、おいしさの成分からみると、脂肪分は味が

濃厚でコクがあり舌触りなどもよいのです。

【ビタミンミネラル】.....

ビタミンB1、B2を多く含んでいます。特に豚肉はB1がたっくさん含まれています。肝臓、腎臓などの内臓肉はビタミンA・ビタミンC。鉄分も多く含まれます。

肉は必須アミノ酸を豊富に含んだ良質なタンパク質です。加齢やダイエットで肉をうまく摂らないといことは避けましょう。そういう場合は脂肪の少ない赤身の肉を使用したり、脂肪の部分を切り除いて調理するなどしてみましょう。

また内臓肉を上手に調理してビタミンAや鉄分を摂取しましょう。 【栄養士 高橋広海】

100g中	牛肉ロース	豚肉ロース	鶏胸肉(皮付き)	牛レバー	豚レバー	鶏レバー
エネルギー	318kcal	253kcal	244kcal	132kcal	128kcal	111kcal
タンパク質	16.2g	17.1g	19.5g	19.6g	20.4g	18.9g
脂肪	26.4g	19.2g	17.2g	3.7g	3.4g	3.1g
炭水化物	0.2g	0.1g	0	3.7g	2.5g	0.6g
ビタミンA	7μg	6μg	72μg	1100μg	13000μg	14000μg
ビタミンB1	0.06mg	0.63mg	0.05mg	0.22mg	0.34mg	0.38mg
ビタミンB2	0.17mg	0.23mg	0.08mg	3.00mg	3.60mg	1.80mg
ビタミンC	1mg	2mg	1mg	30mg	20mg	20mg
鉄	0.9mg	0.6mg	0.3mg	4.0mg	13.0mg	9.0mg

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介します。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

「安心の医療・本当の健康」(みき書房)(株)

「クスリで病気は治らない」(みき書房)(株)

「白血病の息子が教えてくれた医学の心」(草思社)(株)

「活性酸素で死なないための食事学」(廣済堂)(株)

「正しい『アトピー』の知識」(廣済堂)(株)

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」(廣済堂)(株)

「医は仁術なり」(致知出版)(株)

「SOD様作用食品の効果」(小冊子)リーフレット全20巻



SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて

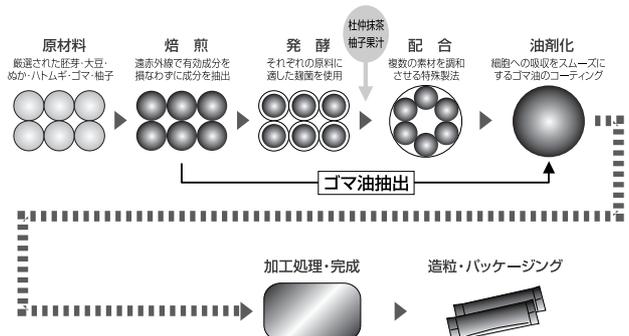
日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会

までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品

『SODロイヤル』が製品になるまで



丹羽博士が開発した特許抗酸化食品  
SOD様作用食品

**SODロイヤル** 天然製材

自然のミネラル カフェインはゼロ  
ルイボス茶濃縮型

**ルイボスTX** 奇跡のお茶濃縮タイプ

**ゴフ・ルイボステ**

【お問い合わせ先】